

市長の二期8年の感想は

質問

平成17年4月に市が誕生し、初代市長として二期8年務められ、大変お疲れさまでした。その8年間、市長を務めた感想と次期市長に対する期待は。

市長

二期8年の感想は、過ぎればどんなことでもそうかもしれないが、あつと期間だった。同時に、合併の時点で、合併は終着ではなくスタートだと感じた。お互い尊重をしながら、互譲の精神でスタートした。いろいろな事務事業は持ち越すものは持ち越して、それぞれの地域をその内容でもって、まず整備をさせてもらった。難題などもあったが、こ



山岡 幹雄 議員



愛西市長
二期8年間
お疲れさまでした。

して今日を迎えられたことも、議員のみなさんの支援、そして市民のみなさんの協力のたまものと思っている。ありがとうございます。特に、5件ほどの訴訟、被告にもなりました。しかしながら、一つ一つ解決ができた。司法の判断を仰ぐべくは仰ぐ、是非は是非として進められたと思っている。

新しい市長に期待することは、難題もあるし、試練の道もあると思う。しかし、原点に戻れば、議員のみなさんも私たちも、「市をよりよくすべく」、これが一番の基本的な願いだ。そうしたこと念頭に置いて進めてもらうといいと思う。

愛知県行革大綱への対応は

質問

県が障害者などの福祉医療に一部負担金導入案という報道がされた。県は、第5次行革大綱に、平成22年度に重点改革プログラムを策定し、22年度から26年度までの5年間に、計画期間として、163項目の取り組みを入れている。障害者などの福祉医療制度の見直しと、県単独市町村補助金の統合についての対応は、どのようにするのか。

企画部長

県の単独市町村補助金の統合の改革内容については2点

あり、既存の個別補助金内での補助メニューを統合すること、環境、防災、福祉などの分野別での補助金の統合により、市町村の利便性を高めるための見直しを検討することになっている。

市民生活部長

26年度新制度開始のめどとして、第一に受益者負担の考えを取り入れるということ、第二に応益負担の考えを取り入れ、所得制限を導入するという案がある。この見直しの素案は、今後の協議をするための素案であって、今後、市町村や医師会などと慎重に協議し、取りまとめる。市の対応としては、その結果を踏まえて考えていく。

その他の質問

今までの一般質問に対する検証